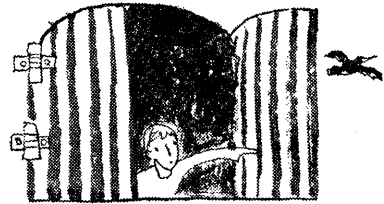


◇園長室の窓から

バス送迎の諸問題

四月に異動して来た当園は園児数百八十人（年少・年長各三クラス計六クラス）で、バス送迎がある。約九十名の子どもを三方向に、一台のバスを三回運行している。バスの所要時間は一回二十分、合計一時間かかる。バスの乗務に当るのは学級担任である。

☆先生のいない保育室



原口純子

「おはようございます」と子どもが元気に部屋にかけ込んで来ても、バス当番の先生のクラスには「おはよう〇〇君」と迎えてくれる先生はいない。帽子やかばんを片付けて「出席ノート」にシールをはろうとするが、どこにはっていいかわからずシールを持ってうろろうろする。机の上には絵具や粘土などその日の活動が準備されているが、先生の声や姿なしには意欲がわかず、床にひろげてあったブロックの

ところに行つて、他の子がすわりこんで何かを作っているのに、そばに行つて足でブロックをけちらしたりする。陽子の持つて来たシタキヤクの花たばも、受けとつてもらえず、机の上に置いたままになっている。次々に登園する子どもたちは外に出たり、廊下に出たり、プレイルームに行ったり、部屋でうろうろしたりしてとりとめもなく四十分間を過ごし、ひたすら担任の来るのを待っている。どんなに整つた保育室でも、担任が待ち受けてくれない保育室はうつろで、暗くむなし。

担任の先生と子どもの朝の出会いは一日の保育をスタートさせる大切な瞬間である。教師は子どもの表情や全体から身心の健康を見定める。昨日けんかをしてくやしい気持で帰つた道夫はどんな表情で来るか気にかかるし、来るなり「わたし今日おたん生日、六歳になったの」と報告する恵子のうれしい気持も受けとめ、祝福してあげたい。保育は歌や遊戯を教えることではなく、日々のささいな出会いや言

葉かけの蓄積の中にこそ相手を育てるものがあることを思えば、朝の出会いには誰でもよいとは思えない。したがつて見廻りのローテーションを組んで安全の確保のみを目的としたバス待ちの保育は納得できないし、まして誰もいない部屋に子どもを迎えることはしたくない。

☆必要悪

全国にバス送迎をしている園はどのぐらいあり、その乗務は誰が当っているのだろうか。近ごろ、子どもの絶対数の減少に伴い、バスは主として、経営上の理由から園の必需品となっている。遠くまでバスは走りまわり軒々に止つて子どもを集める。園によつては、始めに乗つた子は一時間近くバスに乗らばなしで隣の市や村も走りまわることもある。

幼稚園は本来幼児が歩いていける距離が望ましいと思う。それができない場合にやむをえず通園バスを使用するものであり、バスは必要悪で、無いにこ

したことはない。バスを運行するならそれに見合った行政上の配慮、とりわけ乗務の人員の配置をしない限り、バスによって生ずるさまざまな問題は解決しない。

☆バス送迎の問題点

いかにさまざまな情報を聞いていても、実際に事に当り、当事者になってみないと、事の本質は知りたいたいものである。

今まで何度も、バス送迎のある園は大変だという話を聞いていた。その主な理由は、

① バス乗務は疲れる。バスで子どもを迎えに行き、保育を一日行い、さらにバスで子どもを送ることとは、確かに負担である。三コースも続けて乗ると体調の悪い日はバス酔を起こしたりすることもあ

る。
② バス待ちの子どもの保育が容易でない。降園後二回目、三回目のバスを待つ五十六人の子どものを四

十分間にわたって保育しなければならぬ。子ども達は放課後で気がゆるんでいたりと、遊び疲れていたりにする。しかもクラスも学年も入りまじった約五十人の集団である。これを安全に見守ることは、学級集団の保育とは異なった気骨の折れる仕事である。ケガや事故もこの時間帯に起こることが多い。

③ 研修や教材研究の時間がとれない。

④ バスのある園は無い園に比較してはるかに負担が大きいのに乗務手当が一ヵ月二千元というのは安すぎる。

などというように、主として保育者側の負担の問題として受けとめていた。しかし、私の目からは、担任を持つ教諭が日々バス乗務をすることの問題点は、教諭が疲れるとか、乗務手当の問題ではない。むしろ子どもにとって毎日どこかのクラスが教師なしに朝の四十分間もの間放置され、放課後も合併にしてバス待ち保育をすることにある。子どもにとつて望ましくないということこそ、最大の問題点であ

る。

もっとも今まで朝の四十分間もの間完全に放置していたわけではない。年長三人の担任が、手分けして、一人はバス、一人は園庭、一人は園舎内を見廻る、という具合に役割分担をしていたという。しかし「保育」というものは、見廻る程度のものではない。

幼稚園で自習をさせていると聞いたなら誰でも驚かれるだろう。しかし、担任がバス乗務すること、子どもにその間自習させているようなものではない。仮に、小学校に送迎バスがあり、担任の先生が交替でバス乗務することになっていて、一年生のどこかのクラスが一時間目はいつも自習になっていたらどうであろう。校長はこのことを放置するのだろうか。教育委員会も、担任が交替でバスに乗りなさいとか、担任がバスでないクラスはとりの組の先生が見なさいと言うだろうか。父母もしかたがない

と放っておくだろうか。幼稚園での教諭のバス乗務はこのような状況と同じ性質のものである。

担任は朝、子どもを部屋でしっかり迎え、充実した保育をして欲しいと願えば、結局、主任か園長がバスに乗務することになる。園長や主任が毎日交替でバス乗務しなければならないということは、本来の任務を棚上げした上でなければ不可能である。

バスを持つ園の望ましくない大かたの問題は専従の乗務員が確保されることによってすぐに解決可能である。しっかりした時間差保育を実施するには、それなりの人員の配置が必要なのである。

(茨城県)

